

NEWS GOPE

インターネット・ニュースの見方

eye 1

舞台を家電市場に移し激突する

マイクロソフト、サン、オラクル

1月8日～11日の4日間、米国ラスベガスで開催された家電の総合展示会CES (Consumer Electronics Show) で、コンピュータ市場での覇権争いをしているマイクロソフト、サンマイクロシステムズ、オラクルの3社が家電市場の覇権をめぐる争いの火蓋を切った。

編集部：中島由弘

家庭電化製品の総合展示会であるCESの基調講演、そしてコンファレンスには異色なビッグネームが名を連ねていた。マイクロソフトのビル・ゲイツ、サンマイクロシステムズのスコット・マクネリー、そしてオラクルのラリー・エリソンの3氏だ。コンピュータ業界では多大な影響力を持つ彼らが家電のショーにこぞって出演するということから、われわれの注目を引いた。

デジタル化と統合

CESのキーワードとして2つあげるとすれば、「デジタル」と「コンバージェンス (Convergence)」だろう。情報がデジタル化されることで、コンピュータと家電が統合され、複数のメディアが統合されていく。こうした流れを受けて、コンピュータ業界の覇権を争う3社は家庭電化製品市場に乗り込もうというわけだ。

同一のスタートラインに並ぶ各社パーソナルコンピュータのプラットフォームを握り、絶大な影響力を持つマイクロソフトは、その影響力を家電にも伸ばそうとしている。その1つはウィンドウズCE、そしてもうひとつは先ごろ買収したWebTVである。

ウィンドウズCEはすでに発表しているキーボード付きの小型コンピュータだけではなく、ペンベースの「パームPC」、そして車載用の「オートPC」の2つを発表した。WebTVも「WebTV Plus」という次の仕様の製品を用意し、米国でまさに始まらんとしているデジタル放送時代への布石とした (製品の詳細については324ページ参照)。

一方、サンマイクロシステムズは組み込み用のJava、つまり「パーソナルJava」の形を具体的に示した。パーソナルJavaは現在、私たちがコンピュータ上で使っているJavaから、表示装置を持たない機器への組み込みに必要な機能だけに絞ったものだ。これに

より、こうした機器のソフトウェアを開発するエンジニアがJavaの知識を使ってソフトウェア開発ができるというメリットが出る。

また、サンマイクロシステムズはパーソナルJavaを米国2大ケーブルテレビ会社の1つCTI社のセットトップボックス用にライセンスすることで合意したと発表。一方のマイクロソフトもウィンドウズCEをCTI社のセットトップボックス用にライセンスすると発表し、まったく同じスタートラインに並んだ。

もうさらに1つ、マイクロソフトが虎視眈々と狙うのが、セットトップボックス (ウェブトップボックス) のWebTVによるテレビとウェブの融合である。そしてこれに対抗する形で発表された製品が、オラクル社が仕掛けるネットワークコンピュータである。

いよいよ家電もネットワークにつながる

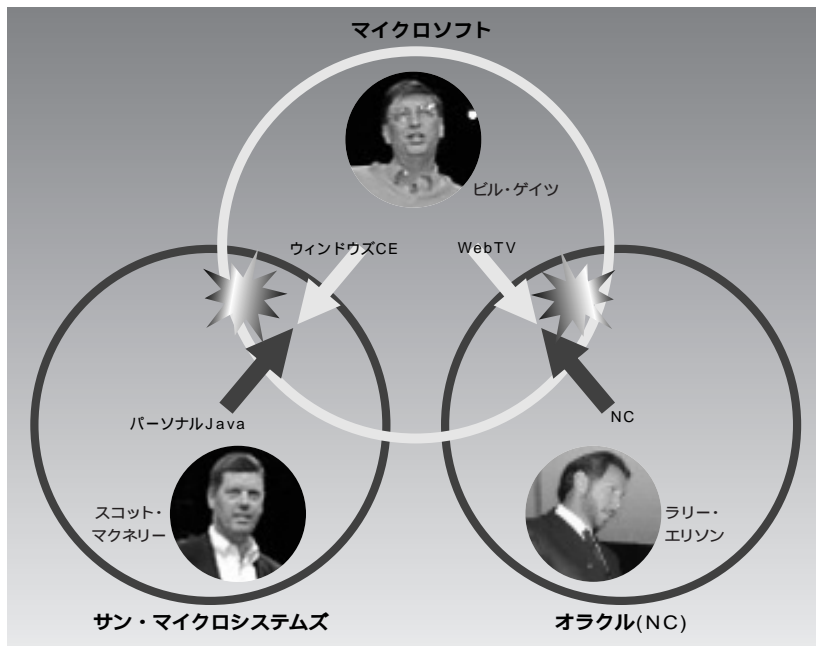
これからはコンピュータ以外のものもコンピュータネットワークにつながる時代が来るということが言われてきたが、いよいよそのための具体的な技術が提示されはじめた。また、コンピュータネットワークの技術が侵食していない家電分野において、どの企業が覇権を握るのか今後の競争が楽しみだ。

パーソナルコンピュータの市場では、すでにウィンドウズが覇権を握り、他社がどのようなオペレーティングシステムを開発したと

ころで、選択肢としては捉えられず、酔狂な遊びにしか見えない時代になってしまった。つまりオペレーティングシステムの分野ではある意味で健全な競争は行われていないといっても過言ではない。しかし、これから情報のデジタル化、そしてネットワーク化が進むと思われる家電分野では、両者が対等に競争できる準備ができたということで、健全な競争が起こることが期待できる。

コンピュータの覇者は家電業界を侵食できるか

パーソナルコンピュータを家電にしようという動きは何年も前から業界の夢だったが、いよいよそれが本格化しつつある。そのキーワードになっているのが「デジタルコミュニケーション」である。こうした野望が成功するかどうかは、まさに今後のコンピュータネットワークが私たちのインフラストラクチャーになるかどうかを占ううえでも重要な動向として、弊誌でも注目していきたい。



舞台を家電市場に移し、覇権を争う3社

Event 「MACWORLD Expo/San Francisco '98」開催 QuickTime3.0がストリーミングに対応

「MACWORLD Expo/San Francisco '98」が米国カリフォルニア州サンフランシスコで1月6日から9日まで開催された。創業者スティーブ・ジョブズ暫定CEOがアップルに復帰して約1年。「正式なCEOの発表が行われるらしい」などの噂が囁かれる中、ジョブズ氏の基調講演に朝早くから多くの人が集まった。

編集部

マッキントッシュ関連製品の展示会、「MACWORLD Expo/San Francisco '98」は、スティーブ・ジョブズ暫定CEOの基調講演で幕を開けた。

講演の中で、QuickTime3.0の紹介や、マイクロソフトによる「Office98 Macintosh Edition」のデモンストレーション、DVDやJDK1.13を正式にサポートする「MacOS 8.1」の紹介、マクロメディアによる「DreamWeaver」のデモなどが行われた。

QuickTime3.0は新たにストリーミングに対応した点が大きな特徴だ。また、プロバージョンはMPEGやWAVEファイルなどの動画や音声の編集などのオーサリング機能を

搭載し、ドラッグ&ドロップで動画の編集をすることができる。ジョブズ氏は、リアルネットワークス社のRealVideo/RealAudioとQuickTime3.0を比較しながら、QuickTime3.0の優位性をアピールし、聴講者も大きな拍手でこれを歓迎した。マッキントッシュ版もウィンドウズ版もベータバージョン



「MACWORLD Expo/San Francisco '98」の展示会場

ョン(再生専用)は無料、プロバージョンは29.99ドルでリリースされる。

URL <http://quicktime.apple.co.jp/index.html>
Apple QuickTime ホームページ

	QuickTime	RealVideo
CD Video		×
Pro Video		×
ストリーミング		
DV Format		×
Misic		
Video	Qualcom Pure Voice	Proprietary
28/56Kbps	H.263	Proprietary
サーバー	Standard HTTP	Proprietary

ジョブズ氏の基調講演で用いられたQuickTimeとRealVideoの機能比較表

1998 International CES開催

速報!

PalmPC / AutoPC / WebTV Plus

家庭用電化製品の展示会としては世界最大の「1998 International Consumer Electronics Show」(CES)が、1月8日から11日の4日間にわたって米国ネバダ州のラスベガスで開催された。家電製品のデジタル化が進む中で、DVDやHDTV (High Definition Television) が注目を集める一方で、インターネット技術を取り入れた家電の新製品も出展された

編集部



自動車に搭載するウィンドウズCEベースのコンピュータ「Auto PC」

1998年のCESは、家電製品のデジタル化に伴い、インターネット技術を組み込んだ製品の発表が数多くあるのではと注目された。さらに、マイクロソフトのビル・ゲイツ会長をはじめ、サン・マイクロシステムズのスコット・マクネリー会長、オラクルのラリー・エリソン会長などがキーノートとして基調講演を行ったことから、インターネット業界のCESへの注目度の高さがうかがえる。

ウィンドウズCEに 新ラインアップが登場

CESの開幕を翌日に控えた1月7日、マイクロソフトはヒルトンシアターにて「Microsoft Unplugged」と題したプレス向けイベントを催した。この中でクレイグ・マンディ上級副社長によって、ウィンドウズCEプラットフォームで開発された以下の新たなラインアップの発表が行われた。

Palm PC

手の平サイズのPDAで、音声録音や手書き文字認識、スケジュール機能などを搭載する。カシオやユニデン、フィリップスなどが製品を発売する。価格は400ドル以下で、米国で大ヒットした3com製の「Palm Pilot」の市場を狙う。

Auto PC

自動車に搭載するコンピュータで、音声で操作する。アドレス帳から電話をかけたり、目的地の指示なども声で認識させることができ

る。CD-ROMプレイヤーやAM/FMチューナーの機能も搭載。地図情報データベースCD-ROMでも動作するが、オプションのGPSを使うと地図情報と道路の混雑情報を組み合わせて使うこともできるようになる。クラリオンやアルパインなどが製品発売を予定しており、価格は1,000ドルほどになる見込み。

WebTV に対抗する NCの新製品が登場

家庭用TVでインターネットにアクセスするための低価格端末も、Zilogや三菱電機など多くのメーカーから出展された。

ウェブTVネットワークスはWebTV Plusを発表した。従来のWebTVと異なり、TV放送とインターネットの情報を1画面に表示させることができるのが特徴で、テレビを観ながら関連のインターネット情報にアクセスすることができる。56Kbpsモデムを内蔵し、ケーブルモデムにも対応する。

また、オラクルのラリー・エリソン会長は、1月9日に行われた招待者向けの昼食懇談会の中で、ネットワークコンピュータ(NC)の家庭用新製品TV Navigatorを紹介

介した。スマートカードの採用などはこれまでのNCのコンセプトを受け継いでいるが、WebTV Plusと同様にTV放送とインターネット情報を同画面に表示できるようになっており、ニュース情報などのティッカー表示もできる。こちらも地上波TVとCATVの両方をサポートする。

サン・マイクロシステムズは、オフィスから病院、学校や家庭向けにパーソナルJavaを使ったさまざまな機器を「Java Town」として展示した。また、家庭内の電力線をモジュラーケーブルの延長線として利用するPhonex社の「Web Jack」や、CIDCO社の「iPhone」のように電子メール端末としても使える電話機が、フィリップスなど複数のメーカーによって出展された。

展示会の印象としては、マイクロソフトやサンなどのインターネット関連企業からの家電製品へのアプローチに比べると、家電メーカーからのインターネットへの積極的なアプローチは見られなかったが、今年のCESは、インターネットの技術はもはや捨て置けないということを経営界に知らしめた4日間だった。



CASSIOPEIA Palm PC E-10



WebTV Plus



NC's TV Navigator

インプレスWatchニュースチャンネルや長野オリンピック情報が新登場 ポイントキャストネットワーク 日本版 2.0 正式版発表

昨年10月の2.0 1登場以来、朝日新聞チャンネル、日経BP BizTech チャンネルと着実にブランドチャンネルを増やしてきたポイントキャストネットワーク。1月16日に発表された2.0日本語正式版でも「インプレスWatchニュースチャンネル」をはじめ多くの番組が加えられた。98年のさらなる普及の鍵をにぎる最新コンテンツに焦点を当ててみる。

編集部

コンテンツは10チャンネルに拡大

1月16日、ポイントキャスト株式会社はポイントキャストネットワーク日本版2.0の正式版を発表した。このバージョンでは、朝日新聞社と日経BP社に続いて株式会社インプレスがコンテンツプロバイダーとして提携し、「Watchニュースチャンネル」を提供することになった。これによって、ポイントキャストネットワーク日本版で提供される情報コンテンツは、ニュース、企業、産業、お天気、スポーツ、ライフスタイルの6つの一般チャンネルに、朝日新聞チャンネル、日経BP BizTech チャンネル、インプレスWatchニュースチャンネル、CNN(英語)チャンネルの4つのブランドチャンネルを加えた、計10チャンネルになった。

第3のブランドチャンネル「Watchニュースチャンネル」は、インプレスの電子メールニュース「INTERNET Watch」と「PC Watch」からの最新情報を随時更新して提供する。INTERNET Watchからは、ウェブサイト情報やビジネス情報などインターネット関連のニュースを、PC Watchからは、パソコン関連の新製品情報や売れ筋商品情報、著名ジャーナリストによるコラムなどをそれぞれ提供する予定だ。

チャンネルごとのカテゴリーも充実

既存のチャンネル内のカテゴリーもタイムリーな情報をはじめとして有用なものが増えている。

朝日新聞チャンネルでは、1月16日より

長野オリンピック関連のカテゴリーを臨時に開設する。提供される情報は、五輪関連のニュース、記録情報、会場の天気などが予定されている。また、長野オリンピック関連のニュースは一般のスポーツチャンネルでも随時提供される予定。

ライフスタイルチャンネルにはテレビ番組専用のカテゴリーが加わり、ドラマ、映画、スポーツの3つのジャンル別に当日の夜および翌日の番組の紹介が見られるようになる。

お天気チャンネルでは、ユーザーからの要望が強かった世界主要都市の気象情報を新たに提供する。世界主要28都市の4日

後までの天気予報および、週間予想最高気温と週間予想最低気温を表示する予定。

アップデートは差分を自動更新

ポイントキャストネットワークにはプッシュ技術を利用したソフトウェアの自動差分アップデート機能がある。これによって、以前の版ユーザーはコンテンツの更新の際に「アップデート」ボタンを押すだけで2.0正式版へ自動的にバージョンアップできる。もちろん、ここで紹介した最新のコンテンツも自動的に追加される。

今後はイントラネット展開か

クライアントやコンテンツの充実とくれば、次はすでに英語版で発表されているポイントキャストサーバーツールの日本語化が待たれるところだ。社内にポイントキャストネットワークを導入した際にトラフィックを軽減する「キャッシュマネージャ」、社内の情報をスマートスクリーンなどで提供する「イントラネット放送マネージャ」などの製品の日本語版はすべて無料で提供される予定だ。今後の同社の戦略はイントラネットへのポイントキャスト浸透であることは間違いない。

入手先 [URL http://www.pointcast.ne.jp/](http://www.pointcast.ne.jp/)



ポイントキャストネットワークに、新たにインプレスが提供を始めた「Watchニュースチャンネル」

ダブルクリック社山村社長が語る 98年のインターネット広告

97年9月に設立、10月に営業を開始し、この1月には検索エンジン「goo」のパナー広告において300万ページビュー/日をたった3か月で達成したインターネット広告のダブルクリック株式会社。同社の山村幸広社長に、日本のインターネット広告の現状と今後の展望を聞いた。

編集部



「インターネット広告の媒体としての確立が使命です」と語るダブルクリック社の山村幸広社長



Q：ダブルクリック社の現在の売り上げと、日本におけるインターネット広告の市場規模をお教えください。

山村：当初予定では、営業開始から1年間で5億円の予定でしたが、昨年10月からの3か月間では、その予定の10%増で順調に進んでいます。現在、契約しているサイトは約30サイト、広告クライアントは約50社で、クライアントの半数がコンピュータとハイテク関連企業、残りの半数が不動産や証券、食品業界などの企業です。日本のインターネット広告全体の市場規模は97年が40億円、98年は80億円になると予想しています。また米国の同市場規模は、96年が350億円でしたが、97年の見込みが1200～1300億円、そして98年が2400～2600億円と予想しています。



Q：ダブルクリック社による広告は、他社と比較してどのような特徴があるのですか。

山村：初期のインターネット広告では、「1か月10万円」のように期間で料金が決まっていた。それがCPT（Cost per Thousand：1000回見られたら3000円など）そしてCPC（Cost per Click：クリックごとに100円など）へと変わってきています。このシステムならクライアントは、見られているかどうかかわからない広告にお金を出すのではなく、見られた分に対してのみお金を出せばいいわけです。そのために、広告会社にはユーザー情報を把握

してターゲットを絞った広告をユーザーに提示することが要求されます。そこで、当社ではDART（Dynamic Advertising Reporting & Targeting）という技術を使っています。これはCookieを利用してドメインタイプや使用OS、WWWブラウザなどのユーザー情報を取得して、それにもとにユーザーに合ったパナー広告を、専用サーバーから広告スペースに瞬時に配信するというものです。DARTによって、ユーザーは無駄な広告を見せられることがなくなり、また広告クライアントはターゲットを絞り込んだ有効な広告展開ができるのです。これを使って、検索エンジンの「goo（<http://www.goo.ne.jp>）」では、検索結果のページに検索キーワードによって異なる広告パナーを出しています。gooは現在300万ページビュー/日になっており、これは日本ではYahoo!に次いで2番目に多く見られているページとなっています。さらにクライアントには、「どのようなユーザーが」、「いつ」、「どこから」、「どれくらい」見ているかなどの効果測定レポートを提供しています。



Q：ダブルクリック社は、98年のインターネット広告市場の成長をどのように見ているのですか。また、どのように展開するのですか。

山村：98年後半から99年にかけて伸びていくと思います。それでもまだアメリカの2年遅れのさらに10分の1程度なんです。

日本のインターネット広告は、まだ今年はそれ自体の認知度アップ、広告媒体としての地位のアップを目指す段階だと考えています。インターネットは新聞、テレビ、ラジオ、雑誌に次ぐ5番目のマスメディア（媒体）だと思っています。ところが、企業の宣伝予算の中にはインターネット広告分の予算はまだ計上されていません。また、テレビの視聴率やラジオの聴取率のように、ある程度統一された客観的な効果測定の手法もレポート形式も確立していません。そこで当社ではDARTを他のインターネット広告会社にライセンス提供しました。DARTは当社の武器なのですが、これを使って小さな市場のトップを取るのではなく、他社にも使ってもらうことでインターネット広告全体の効果を上げ、ひいてはインターネット広告市場を発展させたいと思っています。たくさんの会社が統一フォーマット（ここではDART）を使えば、パナーのサイズが統一されるので、クライアントは掲載するページごとに異なるサイズの広告を作成する必要がなくなります。また効果測定の方法が統一されれば、クライアント側もその効果が客観的に把握できるようになるのです。このようにして、インターネットを媒体として確立して一般の認知度を上げていき、コンピュータとハイテク関連の会社だけではなく、一般の企業や商品の広告比率も高めていくことが必要でしょう。

NEWS GOPE

大英博物館教育部部長に聞く デジタルアーカイブの現在

「有形・無形の文化資産をデジタル情報化して保存・活用し、ネットワークを利用して発信する」というデジタルアーカイブ構想。この会議が97年12月12日に奈良で開催された。会議でパネリストを務めた大英博物館のロウエナ・ラヴァランス氏にその現状を聞いた。

編集部

奈良県新公会堂で開かれた「デジタルアーカイブ国際会議 in 奈良」。文化資産保存活動の1つとして注目を集めるデジタルアーカイブ構想だが、今回はこれまで活動の中心だった行政やデジタル化技術を持つ企業に加えて、寺社や博物館という文化資産を持つ側が参加、三者が協力した会議開催となった。各国学者によるパネルディスカッションや、参加企業による超高画質のデジタルアーカイブモデルシステムの発表などで、例年以上の注目を集めていた。

ディスカッションに出席したイギリス大英博物館教育部部長のロウエナ・ラヴァランス氏に、大英博物館のデジタルアーカイブ活動についてうかがった。ラヴァランス氏は大英博物館の所蔵品をマルチメディアを用いて保存・公開するシステム「COMPASS」の開発責任者であり、EC7か国の研究者を結ぶデジタルアーカイブ構築にも協力している。



大英博物館デジタルアーカイブ責任者のラヴァランス氏

Q：大英博物館のデジタルアーカイブ状況はいかがですか。

ラヴァランス：大英博物館には年間600万人の来館者がありますが、その一部がインターネットからの来館者ということもあり、デジタル化には力を入れています。現在は2000年に向けて、来館者とインターネット双方からアクセスできるデジタルアーカイブシステム「COMPASS」を構築中です。これは、過去20年間にわたって大英博物館が作ってきた収蔵品の目録データをデジタル化していくものです。これまでは600万件の収蔵品の分類作業を10人で行って、目録完成まであと40年はかかる予定でした。しかし、デジタルアーカイブへの移植に際し、カテゴリ分類を従来のものよりシンプルにしているため、作業的にはもっと短時間でこなせるものになっています。今年から版をインターネット上で公開していく予定です。



Q：デジタルアーカイブの利点とは。

ラヴァランス：3点挙げられます。まず、皆で協力できる点。前例のないものなので、コンテンツを見る側と提供する側が、お互いに意見を交換して、より利用しやすいものを作っていくことができます。次に、地域、時代などを越えた鑑賞ができる点。系統的に作品を鑑賞すると同時に、時代や地域というカテゴリを超えた文化の流れをつかむことも容易です。もう1つは、データを加工したり、変化を加えることが可

能な点。例えば中国の明朝時代のティーポットと、イギリスの17世紀のティーポットを見ても、その関係をつかむことは難しいですが、デジタルアーカイブでは、イギリスのティーポットに中国のティーポットのフタをのせてみることもできるので、それによって関係性を明確にすることができます。デジタルデータだからこそ利点ですね。



Q：逆に問題点はありますか。

ラヴァランス：まず検索方法が挙げられます。データベースを利用するので、キーワードから検索するか、それともビジュアルからかという検索サブジェクトの問題。それから、デジタルアーカイブを見る側のどのような人に検索方法を合わせるべきかという問題、アーカイブをどこまで公開するかという問題もあります。デジタル情報の表現方法についても、元となった物体の立体感をどうやって画像で表すか、解説を含めてオブジェクトをどのように表現するのが重要な問題となります。

アーカイブ化することで発生する権利についての問題もありますが、大英博物館では、収蔵品についての権利は自分たちにあると考えています。大英博物館でアーカイブ化したもので権利が他者にある場合は、企画を立ち上げる際に、権利保持者との間でライセンス契約を交わしています。権利保持者の多いモダンアートだと、もっと大変なことになるでしょうね。



Q：他のデジタルアーカイブ活動についてはいかがですか。

ラヴァランス：デジタルアーカイブは過去に前例がない分野のため、さまざまな面での協力体制が必要となってきます。見る側と作り手側の協力、他の博物館との協力、産業界・ハード技術を持っている側との協力などです。文化遺産が過去の遺物にならず、デジタルアーカイブで現代に生かしていくために、「COMPASS」の本格始動ももちろんですが、会議参加国を含めて他国でもこの活動がますます発展することを願います。

Product アイ・オー・データ機器が
手のひらサイズの
プリントサーバーを発売

アイ・オー・データ機器は、SOHO向け10BASE-T/2対応の1ポートコンパクトプリントサーバーを発売した。対応OSはウィンドウズ95とNTで、付属のドライバーソフト「プリンター・ポート・モニター」により、簡単に速いピアツーピア印刷時の自動再印刷が可能になる。また、このドライバーはライセンスフリーなのでユーザー数を無制限で使用できる。価格は39,800円、2月上旬出荷予定。

問い合わせ (株)アイ・オー・データ機器新製品案内窓口 TEL 076-260-1024
URL <http://www.iodata.co.jp/>



手のひらサイズでプリンターに直結できる

Product ダイヤルアップルーターの
CentreCOM AR300が
フレームリレーに対応

アライドテレシスは、昨年9月に発売したCentreCOM AR300のファームウェアのバージョンアップを3月に行う。AR300はマルチプロトコル対応の低価格ルーターで、今回のファームウェアのバージョンアップのみでハードウェアの変更なしにフレームリレーに対応できる。価格は従来どおりの128,000円で、購入済みユーザーはホームページより無償ダウンロードサービスが受けられる。

問い合わせ アライドテレシス(株)
TEL 0120-860-442
URL <http://www.allied-tesisis.co.jp>



ISDN、デジタル専用線、OCN、フレームリレーに対応

Product NTTがOCN対応のDSU
内蔵TA「INSメイト
V-8DSU」を発売

NTTは、128Kbps通信の可能なMPやナンバーディスプレイをサポートした「INSメイトV-8DSU」を発売した。この製品は既存の「INSメイトV-7DSU」の価格低廉化を図ったもので、44,800円と「INSメイトV-7DSU」に比べ10,000円も安くなっている。また、ナンバーディスプレイ対応アナログポートを2つ、S/T点ポートを1つ搭載しているので拡張性も考慮されている。

URL <http://ced.nttca.com/>



INSボイスワープやINSナンバーリクエストにも対応

Product インターネットの
あらゆる英文を翻訳する
「翻訳サーフィンV4.0」

富士通は、インターネット用翻訳支援ツール「翻訳サーフィンV4.0」を2月6日に発売する。これは、業界最高水準の翻訳品質を誇るATLAS翻訳エンジンを使用した「翻訳サーフィン」をバージョンアップしたもので、英文ホームページのほか、ニュースグループや電子メールといったものも翻訳できる。価格は8,800円。検索ソフトを含んだ「同+V4.0」は12,800円。

問い合わせ 富士通ミドルウェア(株)
TEL 045-471-0282



検索ソフト収容の「翻訳サーフィン+V4.0」

Product エー・アイ・ロジックが
ネットスケープナビゲーター用
翻訳ソフトを発売

エー・アイ・ロジックは、インターネット翻訳ツール「Transpad for Windows」の機能のうち、ネットスケープナビゲーターの翻訳に限定したソフト「Transpad NN for Windows」を発売した。翻訳スピードは300,000語/時以上で、各種専門用語を最初からシステム辞書に登録しているなどの使い勝手は変わらない。価格は6,800円。

問い合わせ エー・アイ・ロジック(株)
TEL 03-3798-4838
URL <http://www.ailogic.co.jp/>

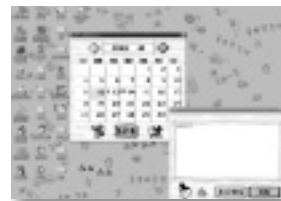


ウェブページそのままに翻訳できる

Product 通信機能を持った3D版
「ポリゴンで発見!!
たまごっち」発売

バンダイ・デジタル・エンタテインメントは、携帯型ペット育成ゲームの「新種発見!たまごっち」の人気キャラクター7体を3Dポリゴンで作成したソフトウェアを2月13日に発売する。基本的な育成部分は従来のたまごっちと同じだが、アダルトっちからスタートして、その育成状態が電子メール送信機能などに反映される。ウィンドウズ95、NT用で価格は3,800円。

問い合わせ サポートセンター
TEL 03-5449-3181
URL <http://polytama.channel.or.jp/>



キャラクター満載の壁紙やカレンダーが楽しめる

Product ウィンドウズ95/NT用
「まいとーくFAX」が
バージョンアップ

インターコムは、FAXソフト「まいとーくFAX V.3」を2月中旬に発売する。送受信データを表示するFAXビューアーがMDI（マルチ・ドキュメント・インターフェイス）に対応し、一度に複数の受信データを表示できるようになった。また、FAXの受信をポケベルや携帯電話へ知らせることもできる、モバイルに適した機能も追加された。価格は14,000円。

URL <http://www.intercom.co.jp/>



日本語OCRソフトも標準添付。同報送信は12000件まで可能

Product クラリスが「クラリス
ワークスインターネット」
を限定発売

クラリスは、インターネット対応のクロスプラットフォーム統合ソフト「クラリスワークス4.0」と「クラリスホームページ2.0」、「ネットスケープコミュニケーター」などをワンパッケージにした「クラリスワークスインターネット」を発売した。前記のソフト以外にも、ウィンドウズ95用としては「SPRY Application」が、マッキントッシュ用としては「クラリスメール2.0」と「Apple Internet スタータキット1.2」がパッケージに含まれる。4月末日までの期間限定製品で、価格はマッキントッシュ版が19,000円、ウィンドウズ95版が9,900円。

問い合わせ クラリス㈱
FAX 03-5210-9022

URL <http://www.claris.co.jp/>

Campaign HOTALL Ver.4.0の
乗り換えキャンペーンを
デービーソフトが実施中

デービーソフトはホームページ作成ソフト「HOTALL Ver.4.0 for Windows95」の乗り換えキャンペーンを実施中。このソフトは通常17,800円だが、他社の同種ソフトユーザーには特別価格の7,800円で、同様にソフトに公式リファランスポック付きパッケージも20,800円のところを9,800円で販売する。対象ユーザーの詳細はホームページで確認できる。

問い合わせ デービーソフト㈱
TEL 011-807-6700

URL <http://www.db-soft.co.jp/>



通常の半額以下で購求できる

Product アイ・エス・ティ
ホームページアクセス
状況解析ツールを発売

アイ・エス・ティは、ホームページログファイル解析ツール「NetIntellect3.0 日本語版」を発売する。このソフトを使うとページの「どの部分」を「いつ」、「誰が」、「どこから（ドメインやプロバイダー）」、「どれくらいの人数が」見ているのかを把握することができ、宣伝、販促活動に役立てられる。マイクロソフトやネットスケープなどさまざまなウェブサーバのログファイルに対応しており、またレポートはWord95/97やAccess97/95などの形式で出力できるため、汎用性が高い。価格は49,800円だが、販売中止となった「WebTrend」のユーザーには19,800円の特別優待版が用意されている（4月30日まで。）

問い合わせ ㈱アイ・エス・ティ
TEL 03-5391-0151
URL <http://www.istinc.co.jp/>

Service ローン借り入れ
申し込み受け付けの
オンラインサービス開始

住友クレジットサービスは、クレジットカード会社では初めてホームページからローンの借り入れ申し込みやリボルビング払い変更の受け付けを行うサービスを開始した。これは、24時間受け付け可能で、セキュリティ機能の付いたブラウザで利用する。借り入れ申し込みの場合、会員はホームページ上の申し込みフォームに会員番号、氏名、借り入れ金額などの必要事項を記入し、SSLによるデータの暗号化で個人データを送信する。

URL <http://www.sumitovisa.co.jp/>



返済金計算のシミュレーションも開始された

Service ビットキャッシュが
プリペイドカードの
通信販売開始

ビットキャッシュは、アプリックスと共同で、送料、手数料なしでビットキャッシュカードを購入できる通信販売を開始した。ビットキャッシュで購入できるコンテンツが増加していることから、通信販売開始となったもので、注文はホームページから「BitCashカード申込書」を取り出し、これをFAXや郵便で送付し、同時に振り込みでの支払いとなる。

問い合わせ ㈱アプリックス デジタルコンテンツ
営業部 TEL 03-3207-6651
URL <http://www.bitcash.co.jp/>



購入は合計金額2,000円から可能

Service NTT-TE東海が インターネット 接続サービスを開始

NTT-TE東海は、SOHO向けにインターネット導入のパッケージサービス「SOHOおまかせバック・」を開始した。このパッケージには、OCNダイヤルアクセスかINSネット64（またはライト）の申し込み、液晶モニター付きデスクトップコンピュータ2台、ダイヤルアップルーター、レーザープリンター、それにすべてのセットアップが含まれており、機器類についてはリースとなっている。料金は988,000円からで、従来はリース契約が難しかった個人事業主も審査によってはその契約ができるようになっている。現在はサービス地域がNTT東海のサービスエリア内だけだが、順次エリアを広げていくという。

問い合わせ ㈱NTT-TE東海 名古屋支店おまかせバック係 TEL 0120-854891
URL <http://www.te-tokai.co.jp/>

Service ダイヤルQ²で 「SoundJam」の楽曲が 購入可能に

平野デザイン設計、日本コロムビア、アプリックスの3社が昨年開始した新音楽流通システム「SoundJam」実証実験で、1月22日よりNTT北陸テルマックの協力でダイヤルQ²を利用したデジタルコンテンツ提供システム「マルシェ・アベニュー」による支払いサービスが利用できるようになる。マルシェ・アベニューは専用ソフトでダイヤルQ²へ自動接続し、購入処理を行う。

URL <http://www.soundjam.co.jp/>



ダイヤルQ²で曲が聴ける

Service NECがLANの システム設計・設定の トータルサービスを開始

NECは、LANを構築する、またはすでにしている企業向けに、導入から運用までのトータルコスト(TCO)を抑えたLANの設計・導入を行う「トータルバリューサービス」を開始した。基本サービスにはLANの設計とインストール、構築工事、クライアントマシンごとの環境設定、操作指導が含まれる。オプションサービスでは各種ボード類の設定やアプリケーションソフトのインストールをサポートする。サービスの対象は基本的にはNEC製のコンピュータ(クライアントパソコンとサーバーマシン)とウィンドウズNTだが、他社製品も扱う予定。基本サービスは30万円から。別途、導入後の保守サービスも用意されている。

問い合わせ NEC C&CシステムSI調達推進本部企画推進部 TEL 03-3456-4208

Service NTTパーソナルが 32Kデータ通信の料金を 2月1日より値下げ

NTTパーソナルグループは、32Kデータ通信を一層普及させるため、2月1日よりPHSによる32Kデータ通信に限って、通信1回あたりの料金を10円値下げする。これにより、通信距離が20kmまでの場合、昼間・夜間ならば60秒まで、深夜・早朝ならば、90秒まで通信料金が10円(従来は20円)となる。これにより、短時間で通信が済む電子メールの送受信などが、さらに利用しやすくなる。また、同時に1か月2,900円の定額で5時間(300分)まで接続可能な「NTTパーソナル32Kデータ料金プランF5」の定額料金を、1,900円に値下げする(5時間を超えた分は通常料金を適用)。こちらのサービスは、別途申し込みが必要となっている。

URL <http://www.nttphs.co.jp/chuo/>

Service JTBが「おみやげNET」 開設記念 プレゼントを実施中

JTBが、全国の特産品のショッピングモール「JTB日本全国おみやげNET」を開設。オープン記念として、毛ガニや辛子明太子、琉球ガラスなどが当たるプレゼントキャンペーンを開催中だ。地方色豊かな特産品は、酒類、菓子、海産物などのジャンルが、都道府県ごとに検索できる。現在は、決済方法は銀行振り込みのみ。

URL <http://www.jjc.co.jp/omiyage/>



日本中の特産品が購入できる

Company NTTが一般モニターや ISPを対象にしたxDSL フィールド実験を開始

NTTが、1998年2月20日から1998年12月10日まで、xDSLのフィールド実験を実施する。NTTアクセス網研究所では、96年から基本的な特性を測定する一次評価試験を実施してきた。今回のフィールド実験の目的はxDSLの技術的な適用条件やサービス性の評価を行うことで、参加するモニターとプロバイダーを一般から募集した(モニター募集は1998年1月23日に終了)。実験は関東(東京、神奈川、千葉、茨城)・関西(大阪)の一部地域で実施され、モニターはNTTから提供されるxDSLモデムを接続したメタリック加入者線を使ってプロバイダーやNTTのOCNなどに接続する。

問い合わせ xDSLフィールド実験事務局(NTTアクセス網研究所内) TEL 0298-52-9787
URL <http://www.ansl.tecl.ntt.co.jp/xdsl/>

Event イベントカレンダー(1998年2月~5月)

カレンダーの日程はあくまでも予定です。お出
かけの際は、問い合わせ先へお確かめください。

国内

開始日	終了日	名称	概要	開催場所	主催・問い合わせ先
2月4日	2月6日	NET & COM '98 URL http://www2.nikkeibp.co.jp/event/netcom/	インターネットテクノロジーによる企業情報システムとネットワークについてのフォーラムや展示会。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主 日経BP社 関 日経BP社 エキスポ事務局 Fax. 03-5210-8285
2月4日	2月6日	PAGE98 URL http://www.jagat.or.jp/JAGAT/PAGE/index.htm	デジタルパブリッシング総合技術展。グラフィックコミュニケーションの進化をテーマに、コンファレンス、セミナー、展示会を開催。	サンシャインシティ コンベンションセンターTOKYO 東京都豊島区東池袋3-1	主 (社)日本印刷技術協会 関 PAGE98事務局 Tel. 03-3384-3112 Fax. 03-3384-3116
2月18日	2月21日	MACWORLD Expo/Tokyo'98 URL http://www.idgexpo.com/	マッキントッシュ関連のハードとソフトウェアを展示。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主 IDGワールドエキスポジャパン、マックワールドコミュニケーショ ンズジャパン、日本工業新聞社、コッポラ放送、フジテレビジョン 関 MacWorld Expo/Tokyo 統括事務局 Tel. 03-5276-3751 Fax. 03-5276-3752
2月24日	2月25日	ベンチャーエキスポ'98	「新世紀を拓くアイデア、技術、ネットワーク」をテーマに開催される。	マイドームおおさか 大阪府大阪市中央区本町橋2-5	主 日本経済新聞社 関 日本経済新聞社大阪本社企画部「ベン チャーエキスポ'98」事務局 Tel. 06-946-4104
3月3日	3月6日	'98 SA SHOW (第14回流通情報システム総合展)	'98 SECURITY SHOW」と同時に開催される展示会。POSシステムやバーコード関連、パソコン、データベース、磁気カード/ICカード、電子マネーなどがテーマ。	東京ビッグサイト 東京都江東区有明3-21-1	主 日本経済新聞社 関 日本経済新聞社事業局総合事業部 Tel. 03-5255-2847
3月3日	3月6日	'98 SECURITY SHOW	情報ネットワーク・セキュリティー・システムやオフィス用情報管理システム、ホームセキュリティー、監視用映像機器の展示会。「'98 SA SHOW」と併催する。	東京ビッグサイト 東京都江東区有明3-21-1	主 日本経済新聞社 関 日本経済新聞社事業局総合事業部 Tel. 03-5255-2847
3月5日	3月6日	ネットワーク・コラボレーション'98	これまで4回行われてきた「イントラネット&グループウェアソリューション」が名称も新たに、内容も拡充されて開催。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主・関 日本経済新聞社 総合事業部 Tel. 03-5255-2847
3月19日	3月21日	IP '98 印刷総合機材展	各種の印刷や製版、DTPなどの総合機材展。	インテックス大阪 大阪府大阪市住之江区南港北1-5-102	主・関 JP印刷機材展協会 Tel. 06-764-7491
4月6日	4月9日	COMDEX/Japan '98 URL http://www.comdex.com/comdex/owa/event_home?tv_event_id=232	コンピュータの総合展示会とコンファレンス。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主・関 ソフトバンクフォーラム(株) Tel. 03-5642-8433 Fax. 03-5641-4617
4月22日	4月24日	'98 ボード・コンピュータ展 URL http://jmagate.jma.or.jp/CONVENTION/	バスボード、OS、開発支援ツール、バックプレーン/周辺機器などに関する展示会。	日本コンベンションセンター(幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主・関 日本能率協会産業振興本部 Tel. 03-3434-0998
5月19日	5月22日	ビジネスショウ'98 TOKYO URL http://www1.meshnet.or.jp/kns_si/event/	日本最大の事務・情報・通信についての展示会。	東京ビッグサイト 東京都江東区有明3-21-1	主(社)日本経営協会、東京商工会議所 関 日本経営協会ビジネスショウ事務局 Tel. 03-3403-8910
5月27日	5月30日	テクノピア '98 東京 URL http://www.nikkan.co.jp/eve/technopia98.html	国際金属加工機械展、オートテック、CAD/CAM/CAE システムショー、物流システム展、新材料加工技術展、洗浄技術コーナーなどに関する展示会。	東京ビッグサイト 東京都江東区有明3-21-1	主・関 日刊工業新聞社 事業局イベント部 Tel. 03-3222-7232

海外

開始日	終了日	名称	概要	開催場所	主催・問い合わせ先
2月4日	2月6日	Internet World Canada '98 URL http://events.internet.com/canada98/canada98.html	カナダにおける最大規模のインターネット&イントラネット関連イベント。製品やサービスなどの分野で展示会が開催される。	Metro Toronto Convention Centre Toronto, Canada	関 Mecklermedia Tel. +1-203-226-6967
3月9日	3月13日	Spring Internet World '98 URL http://events.internet.com/spring98/spring98.html	インターネットの総合展示会。	Los Angeles Convention Center Los Angeles, California, USA	関 Mecklermedia Tel. +1-203-226-6967
3月16日	3月20日	Seybold Seminars New York 98 URL http://www.seyboldseminars.com/Events/ny98/	デジタルパブリッシングなどに関する展示会と講演会。	Jacob Javits Convention Center New York, NY, USA	関 SOFTBANK Forums Tel. +1-415-525-0194
4月20日	4月23日	COMDEX/Spring '98 / WINDOWS World '98 URL http://www.comdex.com/	コンピュータ関連の総合展示会とコンファレンス。	McCormick Place Chicago, Illinois, USA	関 SOFTBANK COMDEX, Inc. Tel. +1-617-433-1500
5月3日	5月6日	Cable '98 URL http://www.ncta.com/	ケーブル・テレビ技術、サービスに関する総合展示会。	George World Congress Center Atlanta, Georgia, USA	関 National Cable Television Association Tel. +1-202-775-3606 Fax. +1-202-775-3692
5月28日	5月30日	E3 Electronic Entertainment Expo URL http://www.idg.com/expos/main.html	世界最大のコンピュータ&ゲーム機などのエンターテインメントに関する展示会。	George World Congress Center Atlanta, Georgia, USA	関 MHA Event Management Tel. +1-781-551-9800



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp